

# 数学

東北大学

経済学部 (文系)

(後期)

## <全体分析>

試験時間 100 分

解答問題数 4 題

### 解答形式

記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

### 出題の特徴

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

**3**は理学部・経済学部 (理系) **1**と共通の問題、**4**は理学部・経済学部 (理系) **4**と共通の問題、4次関数の積分が出題された。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
<b>1</b>	2次関数	数I	(1) 絶対値入りの方程式の異なる実数解の個数が3個以上となる条件を求める。 (2) 絶対値入りの不等式を解く。どちらもグラフを用いると取り組みやすい。	やや易
<b>2</b>	図形と方程式	数II	(2) 線分上の動点と2本の直線の距離がとりうる値の範囲を求める。 (3) (2)で得た2つの距離の積の最大値を求める。	標準
<b>3</b>	微分・積分	数II	(1) 4次関数のグラフと2点で接する直線の方程式と、3点を通る放物線の方程式を求める。 (2) 4次関数のグラフと放物線が囲む部分の面積を求める。	やや難
<b>4</b>	確率 数列	数A 数B	動点の推移確率を、漸化式を解くことによって求める。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

年度によって問題やセット全体の難易度が大きく上下動することがあるが、そこには惑わされないようにしたい。まずは教科書や傍用問題集で各分野の基礎をしっかりと固めた上で、標準～やや難のレベルで問題演習を重ねよう。

また、出題範囲の全ての分野に勉強の手を広げ、穴となる分野がないようにしたい。加えて、場合分けや数え上げを多く要する問題や、文字計算の多い問題、計算量の多い問題にも積極的に立ち向かい、1題1題を最後まで解き切ることを意識して取り組みたい。